(117) 栃木県上都賀郡の真名子（まなご）鉱山

参考文献（１）、（２）を手引きに、本鉱山の探査を行った。本鉱山は栃木県上都賀郡の真名子地区にある。真名子鉱山には２カ所の鉱床があり、各々は、唐松鉱床、ばらが入り鉱床と呼ばれていた。本鉱山の主要鉱物はマンガン鉱石である。

この鉱山への経路は次の通りである。３２号で、北西に進み、栃木ＩＣを通り抜け、２９３号に右折して入って行く。その後、３７号に左折し、北方向に、進んでいく。水木地区当たりで、左折し、八百比丘尼（おびくに）堂（図１中の神社記号）を目指して進んでいく。この付近左手には、栃木ウッズヒルズＣＣがある。尼堂には駐車場があるので、ここに車を止めると良い。

唐松坑跡では、坑口跡、縦坑跡。露天掘り跡、大きなズリを確認できた。露天掘り跡は尾根上に切り裂かれた形状をしており、尾根までの登りは、道が無く、傾斜は少し急であるが、周りのズリの中に標本を探しながら、ジグザグに登って行けば、そう難しくはない。文献（１）によれば、露天掘りでは、緑マンガン鉱が豊富に算出されたとの記述がある。露天掘り跡へは、まだ１回しかたどり着いていない。ズリの探査も殆ど時間をかけていない。次回以降、じっくり時間をかけて、割った劈開面に、緑色の緑マンガン鉱を見つけたいものである。

探査日　　２０１２年４月

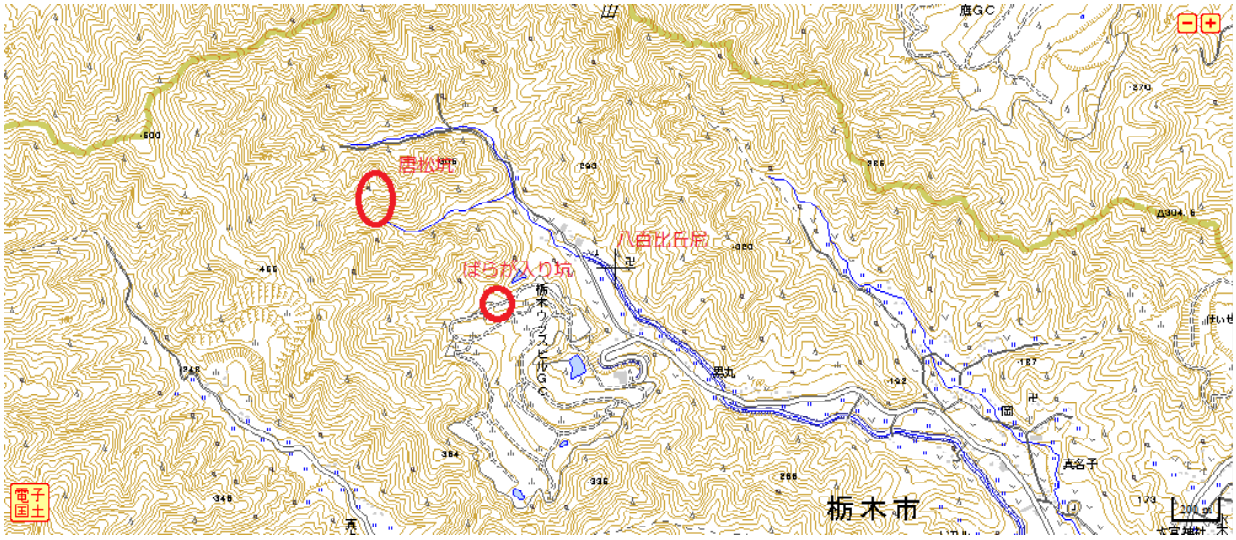

図１　国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。八百比丘尼神社の西側の２つの沢の上流に、唐松坑、ばらが入り坑がある。赤丸輪で示している。

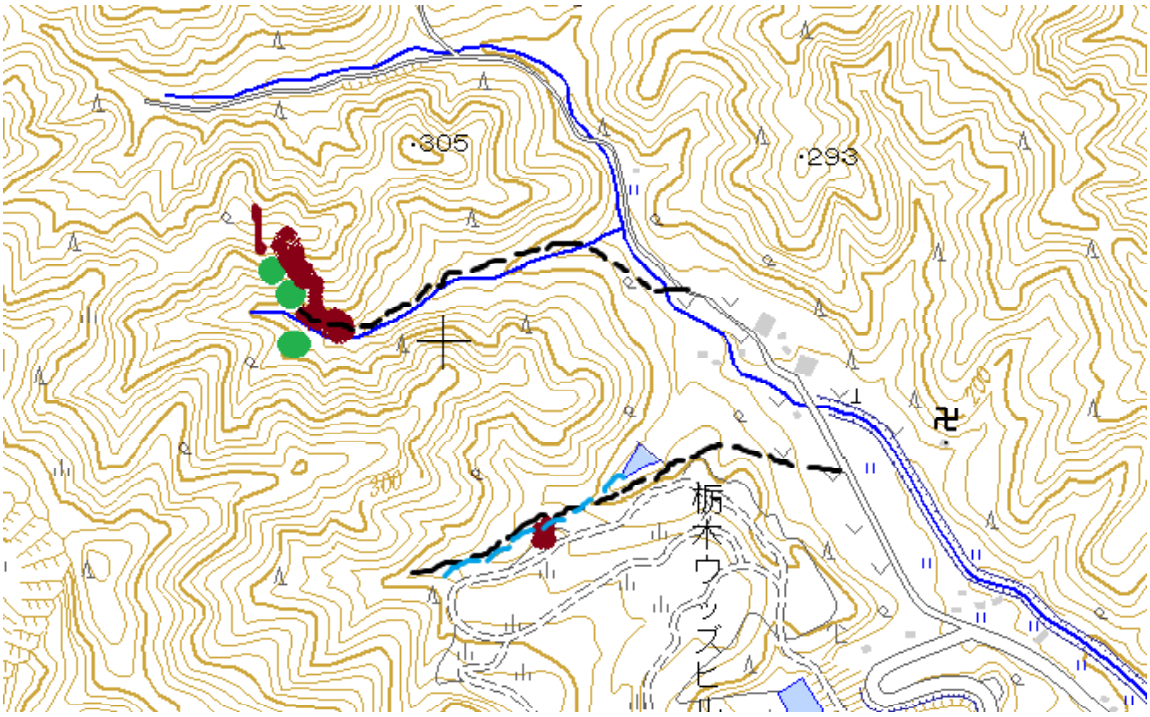

図２　図１の部分拡大地形図。上が唐松坑跡、下がばらが入り坑跡と思われる箇所。黒波線で道を書き入れている。緑丸が坑口跡。茶色線分が露天掘り跡、茶色ベタがズリ跡。ばらが入り坑跡の殆どは、ゴルフ敷地の造成で消滅したようである。

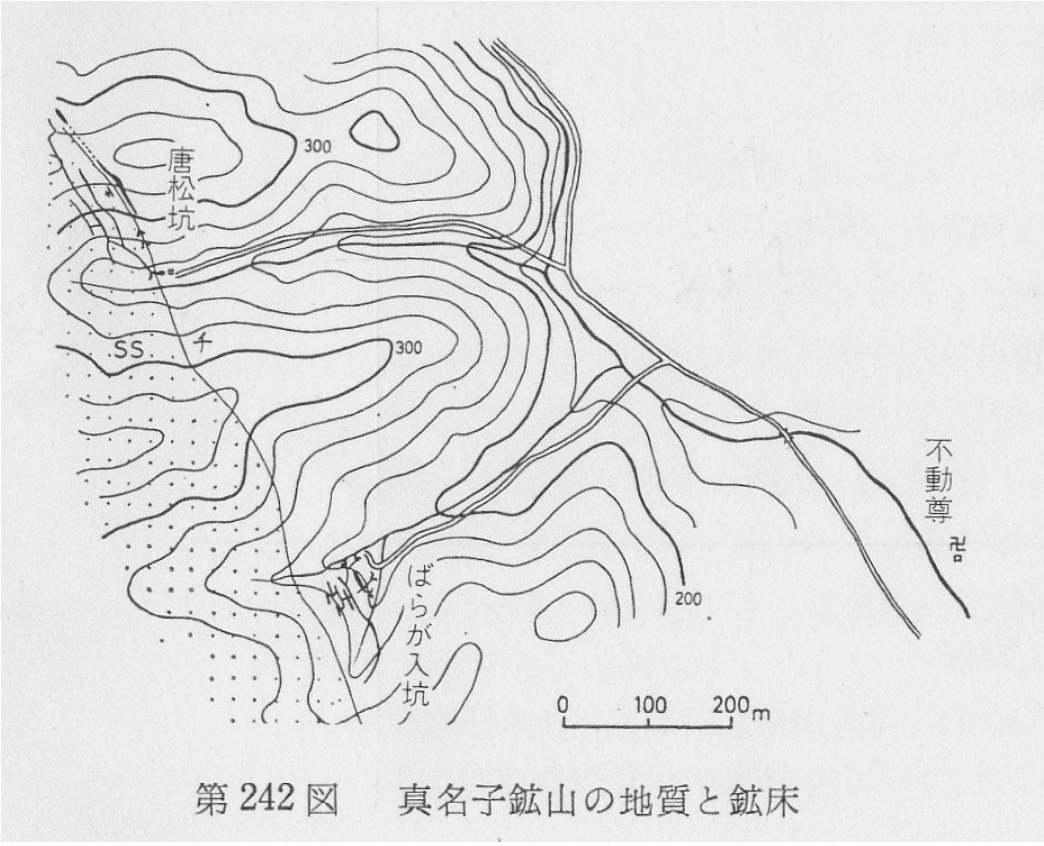

図２　参考文献（１）より複写掲載。ばらが入り坑の文字のある箇所の含めて、この辺り一帯は、現在では、ゴルフ敷地になっていることが図１，図２からわかろう。

鉱山跡写真

唐松坑

写真１　唐松坑への入り口。図３は昔の地図である。現在とは異なっていることに注意。左側の側道に入っていく。直ぐに橋を渡り、右手に砂防ダムがある。そして沢に多ゴリ付く。沢に沿って、まだ生きている道がある。先に進んでいく。

写真２　沢の右手にあった潰れかけている坑口跡。手前の沢の右手には広く長いプラトーがあった。鉱山施設があったのかもしれない。斜面はズリである。

写真３　坑口跡を、上に登って行くと、巨木の間に、縦穴坑口跡があった。巨木の存在が時間の経過を感じさせる。

写真４　さらに上に登って行く。尾根に出る。尾根を切り裂いたかのように、露天掘りの跡があった。文献（２）の記述と良く合致している。

ばらが入り坑

写真５　側道がある。ばらが入り坑への入り口。画面の右側に、八百比丘尼の駐車場がある。この道を進んでいく。道の左側はゴルフ場である。進んでいくと右側に砂防ダム。道に結構、たくさんロストボールが落ちていた。

写真６　ズリのあった場所。林道から撮影している。真ん中を右から左に沢が流れている。沢の向こう側の平らな部分。前方上部には岩塊がある。岩塊の向こう側は、ゴルフ場の敷地となっている。岩塊に登り上がって見た。ゴルフ場の造成などで、ばらが入り坑跡は消えたのかもしれない。

採集鉱物写真

特になし。マンガン鉱は、様々な色を持っている。ピンク色、紅色のバラ輝石とパイロクスマンガン鉱、真っ黒の酸化マンガン鉱以外、著者には未だ、マンガン鉱の識別眼がない。

参考文献

（１）「日本のマンガン鉱床補遺　後編」、吉村豊文、吉村豊文教授記念事業会、１９６９年。
（２）「日本地方鉱床誌　関東地方」、今井秀喜、河井興三、宮沢俊弥、朝倉書店、１９７３年。